院、青巖寺、高祖院、蓮花三昧院、大樂院、成福院、大乘院、圓滿院、寶壽院（門主寺、寶性院、無量壽院を合併し、今は修道院、勸學寮を經營す）等六十數ヶ寺に過ぎず、就中獨立自營して宿坊となりしものは纔かに二十八ヶ院（○印のあるもの）しか存在せず、他は殆んど其の名跡を殘すのみにて、其の建築も不完全にして收入皆無の寺院が其の大部分となつてゐるのである。從つて此の派に屬する古文書は、斯く多數の寺院の癈亡に伴ふて散失し、現存せる各院の如きも過去數度の火災に見舞はれて、其の都度貴重なる古文書を烏有に歸し、今日では殆んど古代のそれに比して九牛の一毛にも足らざるべく、纔かに當卷所收の如き現狀に立ち到つた。誠に遺憾の極みとしなければならぬ。尤も上記六十數ヶ院の當派所屬寺院にして諸種の事情よりして當卷に收むるを得なかつたものも尠くはない。

即ち寶壽院文書は特に一卷に編纂する方針なるを以つて之を省き、金剛三昧院文書、上藏院文書等は既に刊行し、寶龜院、正智院、普賢院等の文書は、寶龜院は前年來、余も其の囑託となり、東京帝國大學史料編纂所に於いて彼の所員に依つて昨年來全部の目錄作製中なるが爲め、其の目錄完成迄此れを借覽するを得ざりし爲め、又正智院には大樂院、自性院、善集院等の聖教記錄文書等が一庫に蒐藏されてゐるが、同院は近年再度の火災に逢ひ、幸に書庫は殘存せしも經卷、聖教、雜具等一切が一時同庫に一所に收めらるるを以つて、整理に着手するを得ず、普賢院は此れ又近く東大史料に於いて整備の方針なるを以つて、其の以後に讓るの止むなきに到り、之れを收錄するを得なかつた。

最後に當卷の刊行が斯く豫想外に遲延し、前回配本分を刊行してより二ヶ年餘の時日を經過せしめ、其の間何等の善後處置にも出でなかつた事は、此の文書刊行に關して特別の御援助を蒙つてゐる啓明會並びに原田積善會に對しても責任上誠に申譯はなく、又之れが刊行編纂の事に關して、公私特別の御盡力を忝ふしてゐる德川賴貞閣下、前田米藏閣下、鶴見左吉雄先生、辻善之助博士、故鷲尾順敬博士、佐伯武雄先生、木舍幾三郎殿、其の他東京京都兩帝大の教授諸先生等には勿論、購入者諸彥に對しても、常に手厚き御好意に浴してゐる手前、其の御好意に反せる罪は甚大であるが、此所に篤く謝罪する次第ある。實は當卷の原稿を印刷所に廻附せしは一昨年の四月であつたが、其の後間もなく印刷所に於ては工務員が一時に三人、當、編纂所に於いても助手二名等々が應召して、印刷原稿、校正共に遲々として進捗せず、漸くにして臨時雇員を補充せし所、計

らざるに印刷紙インキ等の統制を受けて全く資源を失ひ、殆んど中絶の止むなきに到つたのである。然るに先々月末纔かに人的物的不足の補充をなしを以つて、當方並に印刷所は共に渾身の努力を拂つて本日漸くにして之を刊行するに到つた。誠に昨一ヶ年中は言亡慮絶の苦患に責められ、精神的にも肉體的にも殆んど盡すに言葉を知らぬ有様であつた。此の苦患苦衷を御諒察あつて、何卒御諒恕あり寛大の御認容あらん事をひたすら冀ふ次第である。

尚當卷の編纂、校正等に對して、專ら東京帝大史料編纂所相田二郎、森末義彰兩編纂官及び同所々員より特別の應援を得し事を特記して感謝の微衷を表明する次第である。

昭和十六年三月廿三日　印刷
昭和十六年三月三十日　發行

高野山文書（十二卷ノ内）
第六卷　舊學侶方一派文書
定價　金五圓

編纂者　中田法壽

發行兼印刷者　京都市中京區壬生坊城町六番地
高野山文書刊行會代表者　定池由太郎

印刷所　京都市中京區壬生坊城町六番地
天進社印刷所

不許複製
著作權所有

發行所　京都市中京區壬生車庫通四條上ル
東進書院内
高野山文書刊行會
振替口座大阪一四七〇七番

711
56